

# 母校の近況報告

## 山岳部、水泳部上西秀長君

### 全国制覇の快挙

進路面においては、平成十五年卒業生はよく努力してくれ、国立大学の合格者総数は一五六名であった。これは1学年八クラス編成になってからでは最も多い。又、国立大学への合格率、進学率共に、ここ十年で最高の値であった。特に女子の国立大学進学率は五・四％で、女子の半数以上は国立大学に進学したことになる。私立大学へも、早慶に現役で二十名が合格したのを初め、多くの難関校に合格し、大変健闘したと言えよう。現三年生も模試等の結果からよく努力している様子が窺える。今後とも、成果を上げてくれることを期待したい。

部活動面では、本年度、山岳部の高校総体全国制覇、水泳部上西秀長君の一五〇〇M自由形の高校総体全国優勝などの目覚ましい活躍が目立つ。特に、普通科の公立高校としては、今年の高総体で二種目以上の全国優勝を成し遂げているのは本校だけであり、藤枝東高の名を大いに揚げられる活躍だったといえよう。又、サッカー部は平成十五年の全国高校総体選手権、平成十六年度の全国高校総体・全日本ユースに出場した。サッカー王国と呼ばれ、全国一の激戦区と評される静岡県で、選手権・高校総体・全日本ユースの全ての大会で代表権を獲得することは至難の技であり、近年では例を見ない。

その他にも部活動での成果は多い。全国大会・東海大会への出場では、陸上部の中村千春君が三〇〇〇M障害で東海五位に入り、全国高校総体に出場した。中村君は五〇〇〇Mでも東海大会に出場している。又、水泳部では上西秀長君が四〇〇M自由形でも県大会で優勝し、東海大会へ出場した。更に一〇〇M自由形と五〇M自由形で伊藤亜恭さん、一〇〇M背泳ぎで木村貴大君も東海大会へ進出している。弓道部は女子団体が県大会で準優勝し東海大会へ駒を進め、文化部では棋道部の鈴木広将君が囲碁で全国大会へ出場している。

高校総体県大会出場となると、右記の部活以外に男子バスケット部、男子バレー部、女子バレー部、男子テニス部、女子テニス部、卓球部、柔道部、放送部など枚挙にいとまがない。どの部活動も日々練習に精を出し、藤枝東高の代表として恥ずかしくない成果を上げてくれると言えよう。

# 全国高校総体

## 戦績報告

### サッカー部

#### 04総体をふりかえって

部長 北島勝彦(47回)

昨年度は県内二冠を達成し、全国高校総体、全国高校サッカー選手権大会全国大会に出場したものの、どちらの大会も皆様の期待に届くことができませんでした。そこで、今年度は、昨年の汚名返上の年としてスタートし、六月の東海大会では二年連続優勝することができました。しかし、十一度目の出場を果たした04中国総体では、初戦の前橋育英戦、押し気味に試合を進め、シュート数は上回りながらも決定力を欠き、1-1のままPK戦となり初戦敗退という結果となりました。

本校サッカー部は昨年同様スタートしたプリンスリーグに今年も参戦しています。四月中旬から七月中旬まで高校総体県予選、プリンスリーグ、東海大会と毎週公式戦があり、気の抜けない試合が四ヶ月間続いていました。全国高校総体は満足できる結果ではありませんでした。選手たちは県予選を勝ち抜くことにより、またプリンスリーグを戦うことにより精神的にも肉体的にも昨年に比べ成長したと実感しています。九月二十五日からは第十五回全日本ユース選手権大会がスタートし、十一月からは全国高校サッカー選手権大会県予選決勝トーナメントが始まる厳しい日程が続きますが、全国優勝を目標に生徒ととも日々精進したいと考えています。

## 山岳部

### 山岳部の山よ、人よ、ありがと

山岳部顧問 松田望

昨年全国大会に初出場を果たした山岳部は、先輩が残した十三位を超え、六位以内入賞を目標にして島根県の三瓶山で行われた04総体登山競技に臨みました。成績発表で「優勝、藤枝東高」と聞いた時は誰もが喜びよりも信じられないという顔をしていたのを、今でも覚えています。ただ、閉会式後大会運営委員長に御礼の挨拶をしたところ、たまたま居合わせた審査委員の方が、「藤枝東高さんですが、強かったですよ」と祝福してくれました。登山競技は、体力、歩行、自然観察、読図、救急法や天気図作成、炊事、テント設営等十三項目で競い合います。二位との差は僅か0.1点、各県の予選を勝ち抜いてきた好チームに対し、何が優れていたのか考えてみました。

もちろん、主顧問の別所先生が求める厳しい練習に耐え、その気になって努力したのが勝因であるという事は言うまでもありません。しかし、その根底に山を楽しめる豊かな感性があったことが大きかったと

# 支部活動報告

久永正夫(28回)

## 関東地区

去る七月十日、高輪プリンスで関東地区同窓会を開催した。今回は母校創立八十周年を記念してアジア開発銀行総裁千野忠男氏(55回)に「アジアの発展と日本の将来」と題してご講演頂いた。その他、本部同窓会長を始め、校長、サッカー部後援会長にそれぞれ母校の近況等をお話頂いた。懇親会では先輩後輩の分け隔てなく交流の輪が広がり、同窓会ならではの雰囲気醸し出された。今回は、関東地区同窓会を定期的に開催するようになって四回目の開催であったが、154名の方々の出席を得た。二年毎に七月の第二土曜日に開催することにして、今回は平成十八年七月九日にも検討している。四回開催する間に、幹事や事務局の努力で同窓会開催のノウハウもほぼ固まったが、毎回苦勞するのが会員への連絡である。今回は創立八十周年記念会員名簿を基に関東在住会員全員(2,530名)に本部関係者を併せて2,530名の往復葉書を出したが、返信は1,107通(内出席通知168)で、宛先不明での返送分は135通であった。連絡費用は三十万円を越すがこれを出席者の会費から出さざるをえないので、一人当たりの負担が二千元になる。同窓会は有志によるものであるから、次回は返信のあった有志のみ通知するなどして費用を節減したい。殆ど無料で済むEメールの普及が待たれる次第である。

## 水泳部

水泳部顧問 藤原士郎

今年、水泳競技のインターハイ、日本高等学校選手権水泳競技大会は島根県松江市で開催され、本校からは男子四百M、千五百M自由形に上西秀長君一人が出場した。上西は昨年、千五百Mで準優勝し今年も関係者の間では注目されている中で見事優勝を飾ってくれた。たいへんうれしく思っている。

本人曰く「昨年の準優勝はものすごくうれしかったが、今年も優勝できて実のところはほっとしている」ということであつた。この優勝は、準備以来、周囲からは次は優勝だ、優勝しないなど声を掛けられ、プレッシャーになっていたというのだ。インターハイ出場をかけた県予選、東海大会では泳ぎに切れがなく、タイムをみて昨年より下回っており、今思えば、本大会が近づくと目に見えないプレッシャーが襲っていたのかもしれない。それでも八月に入ってから徐々に調子もどおり気持ちも上向いてきていたが、大会一日目に出場した四百M自由形は平凡なタイムで予選落ち、ずいぶん落ち込んだ。二日目の千五百M予選も前日のショックを引きずったままの消極的なレース展開となったが、翌日の決勝では一転して積極的なレースを展開し、トップでゴールしてくれた。

最近の高校水泳界の強豪選手は、自身の通う学校の水泳部に籍を置きながら主たる活動場所はスイミングクラブという形態が多くなっている。上西も学校で行う合宿等には参加することがあっても普段はクラブで担当コーチと共に日々練習に励んでいる。帰ってから各方面への報告の中で上西は「ほんとうに多くの人たちに支えられていることがわかり、泳いでいる間でも、応援してくれている人たちのためにもなんとかして勝たれたいと思う気持ちでいっぱいだった」と話した。

水泳部のOBからも励ましをいただき、多くの方々に応援していただいたことを願います。Eメール等にて問合せ、近況を事務局までお願いします。

## 県内支部

☆今年度三十一回目になります「藤枝会(とうとうかい)」は、掛川から西の県境までの在住者及び所縁の方々で、毎年十月十日の近辺に開催され、会の名前はマツチした予定日ともなっているのが、ユニークであり役員の方々の苦勞で賑やかに継続されています。現在の代表役員は大塚義郎(34回)さんです。

☆静岡支部は第一回を平成五年に開催し、二年に一回のペースで、第五回を平成一五年に実施されています。

☆静岡支部の同窓会はエリアを限定しない。呼掛け方式による「同窓生の集い」です。出席者は百名前後になっています。現在の代表役員は西川英雄(35回)さんです。

☆岡部支部は、平成一六年七月に「これからの支部活動」のテーマに役員会を開催しました。

現在の代表役員は竹下芳太郎(39回)さんです。

☆榛南支部は、支部設立準備会を平成一六年一月に開催しました。

近年榛南支部から母校へ通学される生徒が増加したことから、支部の設立を目指し準備しています。

現在の代表役員は三輪昌光(31回)さんです。

☆金谷三川根支部は、支部設立準備会を平成一六年九月に開催しました。五百名の近い同窓生のまとめをめざして取組んでいます。

現在の代表役員は高木孝祐(35回)さんです。

# 同期会報告

藤枝東高の会 小長谷節子(30回)

ああ東海の空遠く、希望に燃え東高に入学したのは今から五十一年前。当時女子は全校で四四人、体育は合同、制服はなかった。第二四回「三一回卒業女性だけの「藤枝東高の会」がある。会員八十名、最年少六五才。各回持ち廻りの担当で、二年に一回楽しい交流会を開く。高齢化で人数は減るが、存続を願う声が高い。今や女子は約半数を占め勉学に生徒間に互角です。ショートスカートの制服に時代の流れを感じる。創立八十周年、卒業生二万二千人。世界中広い分野で活躍する人も多い。後輩も続々と巣立ってゆく。藤枝東高才!!

我が学び舎の高き名を、我が学び舎の高き名を、我が学び舎の高き名を。

永久に讃へん友よいざ。

39回生 回別役員代表 栗田富好

平成十四年一月に第二回同期会(参加者138名)を開催した後、県内在住同期生の異業種交流を目的とした「枝高第三十九期交流会」を発足させ、およそ三年ごとに開催予定の同期会の中核となるべく、年に二、三回のペースで集まっています。この七月二十四日には、河村正史君の県弁護士会会長勇退に対する慰労会、館正義君の藤枝市議会議長就任の激励会等を盛り込んで納涼会を開催しました。赤い顔をして酒を酌み交わしている様子を見れば「同窓会」ではないかと疑うような、見た目の年齢差はあるものの、まだまだ若さを感じさせる会でした。同期会や交流会開催の報告が出来ることを、同期の仲間と神に感謝しつつ、先輩諸氏及び後輩諸君のご活躍とご健勝を祈念して報告いたします。

# 平成15年度 決算報告

収入総額 21,955,992円 支出総額 3,221,295円  
 差引金額 18,734,697円

収入の部		△は減		単位:円
科目	15年度予算額	15年度決算額	増減	適要
繰越金	18,750,914	18,750,914	0	内209・400・300万円は焼津信用金庫へ定期
会費	3,200,000	3,200,000	0	10,000円×卒業生320名
雑収入	1,086	5,078	3,992	預金利息等
合計	21,952,000	21,955,992	3,992	

支出の部		増減		適要
科目	15年度予算額	15年度決算額	増減	適要
会議費	300,000	249,192	△50,808	本部役員会、役員総会
事務局費	332,000	219,921	△112,079	
事務局費	50,000	0	△50,000	
旅費	80,000	50,000	△30,000	
印刷費	100,000	0	△100,000	
通信費	100,000	138,305	38,305	往復葉書、切手
消耗品費	2,000	31,616	29,616	祝儀袋、芳名帳等
事業費	1,800,000	752,182	△1,047,818	
記念品費	150,000	67,796	△82,204	卒業証書入札筒
慶弔費	500,000	136,696	△363,304	香典、弔電、奠儀、祝儀等調整
会館補助費	100,000	100,000	0	
会館整備費	200,000	0	△200,000	
会報発行費	300,000	0	△300,000	
保険料	70,000	57,820	△12,180	同窓会館火災保険料
特別会計補助金	380,000	380,000	0	
雑費	100,000	9,870	△90,130	
予備費	19,520,000	2,000,000	△17,520,000	
合計	21,952,000	3,221,295	△18,730,705	